

日時
場所

令和四年七月十七日(日)

午前十時開会(開場九時)

広島市安芸区民文化センター

広島市安芸区船越町三―二―十六

(〇八二)八二四―一三三〇

令和四年度

中国地区代表選出

全国吟詠コンクール中国地区大会

主催

公益財団法人

日本吟剣詩舞振興会
中国地区連絡協議会

全国吟詠コンクール決勝大会

◎とき R4-9-19(月・祝) ◎ところ 日本教育会館

大会次第

一、	国歌斉唱	一、	大会会長挨拶
一、	開会の辞	一、	来賓挨拶
一、	トロフィー返還と レプリカ贈呈	一、	審査会 審査評議
一、	審査委員紹介	一、	審査 審査表
一、	審査規定発表	一、	成績 成績発表
一、	吟詠コンクール	一、	表彰 表彰辞
一、	大会委員長挨拶	一、	閉会の辞

(注意)

一、役員集合午前九時

賤田漁人曰小吟詩舞振興会全詩

世川良一作

朝に今夕に舞うて心身と練り
 礼節持し束て互に真と養う
 世界は一衣皆我友
 願わくは斯道と興して人倫を正さん

世川鎮江書

大会役員

藤上	廣重	山本	平岡	井上	藤岡	大橋	田村	森山	田邑	宮野	藤河	熊本	下原	神田	春菜	楠部
南風	光陽	賀陽	光陽	游洲	鶴伯	宗風	鵬山	清明	嘉風	鶴誠	久清	慧山	龍劍	清峰	翔桂	齋山

大会会長	大会副会長	大会委員長	大会副委員長	大会事務長	大会副事務長	大会事務次長
大本	佐藤	森岡	藤上	河田	高木	中林
橋本	浮津	菅源	胡中	高山	木戸	山田
翠山	翔風	盟山	翔山	藹泉	法洲	涼風
清邦	虔山	右光	翠陽	鶴山	一山	皓山

審査委員

審査委員長	審査副委員長	審査委員	調和審査委員	発音審査委員	詩文監査	音響監査
山本	佐藤	楠部	森岡	河田	高木	中林
橋本	橋本	橋本	橋本	橋本	橋本	橋本
明洲	昇風	嘉風	鷹巖	鶴誠	桜山	滄山
賀陽	翔風	齋山	盟山	藹泉	法洲	涼風
清邦	明洲	昇風	嘉風	鷹巖	鶴誠	桜山
翠山	翔風	盟山	藹泉	法洲	涼風	清邦

大会相談役

中西 摂奨 山本 鷺風 坪井 誓山 千田 岳鵬 藤岡 鴻琳 向山 滄洲
 加藤 肇山 佐々木 翠滉 長尾 岳鶯 赤木 賀峻慶 福嶋 賀久淳 藤木 翠華
 土井 典周 二宮 信風 河村 昇山 佐々木 龍花 西向 寺靜邦 小坂 蘆洲
 岸本 岳靖 谷野 忱風 楠部 齋山 河村 志風 竹内 龍馨 山城 明洲

大会参与

米本 耿泉 八田 千楓 猪木 原滙泉 大山 師泉 武田 岳建 今脇 萌山
 内藤 秀山 玄馬 六泉 松永 楓山 森島 麗桜 大下 馨風 杜下 勝峰
 倉本月華城 岡部 鴻愼 増田 斑山 青木 剣心 岸田 天洲 児島 昂山
 小林 翠山 杉原 馨仁 片山 久山 木戸 翔希声 末広 盛峰 小谷 賀清範
 中島 翔竜 中西 潮誠 二井 谷健山 園田 華山 白井 翠画 楠部 倫山
 秋山 翠柳 島村 弘山 新内 賀久隆 道田 煌山 竹森 彪華 菅源 右近
 秦 早洲 藤本 靜寿 高木 婉風 吉村 菁風 白濱 妃風 兒玉 江風
 伊井野 翔踪 遠藤 鯉伯元 東 豊山 佐伯 統風 山本 龍貴 菅源 左翔
 矢立 鳳山 寺本 龍山 加藤 熒泉 平井 潤翠 関口 麗煌 松浦 良紀
 曾田 麗翠 網島 實尚 佐々木 伸山 小川 聡風 玉井 薫風 金山 孝風

大会運営役員

総務	受付	司会	進行	音響	計録	接待	昼食	会場・舞台	集計	集票	賞典
◎正木 鵬山	◎道田 煌山	◎楠部 希山	◎忠田 誓山	◎石本 琢山	◎島原 樹山	◎榎本 熹山	◎小林 翠山	◎山下 勝峰	◎木戸 一声	◎大下 馨風	◎池本 照山
山田 皓山	杉原 馨仁	大岩 燦山	佐藤 琇山	片山 久山	森戸 慰山	竹森 彪華	保井 龍爽	宮本 積山	松尾 博山	深田 翠谷	谷口 翠玲
金屋 馨心	小林 翔山	吉松 享山	太田 裕声	片山 晴俊	野崎 勵山	澤井 捷山	大本 翠貴	大内 鴻碩	島村 弘山	伊藤 靖山	岡田 楊山
豊田 雄山		埤 美山	黒田 展山	空谷 水声				水本 潭山	寺本 龍山	角田 陽山	中野 康山

「註」◎長 ○副

令和四年度全国吟詠コンクール中国地区大会実施要項

- (1) この「コンクール」は、わが国の伝統芸術である吟道に親しむ一般並びに青少年に、日ごろの吟道精進の成果を競う場を与えると同時にすぐれた吟詠家を発掘し、これを表彰して吟詠の向上と普及、発展を図ることを目的とし、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会制定の全国吟詠コンクール実施要項に基づいて実施する。

- (2) この「コンクール」は、左の六部門に分けて行うものとする。

区分	幼年の部	少年の部	青年の部	一般一部	一般二部	一般三部
資格	満12才未満	満12才以上 18才未満	満18才以上 35才未満	満35才以上 55才未満	満55才以上 70才未満	満70才以上

(いずれも年令は令和四年四月一日現在とする)

- (3) この「コンクール」の出場者は、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会中国地区連絡協議会運営下にある五県の予選大会で行われた「コンクール」に出場して選出されたものであり、「プログラ

ム」に記載された者以外の出吟は許されない。
尚、次の者はこの「コンクール」に当初から参加を認められない。

- (イ) 第四十九回全国少壮吟詠家審査コンクールに入賞した者、及び少壮吟士として表彰された者。
(4) この「コンクール」は次の審査要項によって実施する。
(イ) 「コンクール」を行う順序は大会次第通りとする。
(ロ) 出吟順は申込メ切後厳正公平な抽選で決定した「プログラム」順番通りとし、この変更は許されない。
(ハ) 吟題はすでに発表された本年度指定の吟題(幼年・少年の部十題、青年・一般一部・二部・三部十題)のうちから選び、あらかじめ届け出た一題を吟ずるものとする。
(ニ) 吟じ方は、まず司会者が出場者の番号・氏名を紹介し、出場者は指定伴奏CDの前奏を確認し吟じ始める。出吟前後の礼は省略する。

- (ホ) 吟詠時間は吟じ始めてから二分以内に吟じ終るものとする。
- (ヘ) 何らかの原因で伴奏曲が本人申告と違った場合には、前奏の間に申し出ること。
- (5) 次の場合は失格とする。
- (イ) あらかじめ届け出た「プログラム」に記載された吟題と異なる場合。
- (ロ) 財団刊行の吟詠教本の読み方に基づいて統一された、本年度指定吟題の読みと異なる場合。
- (ハ) 吟詠の途中で絶句・やり直し・誤読をした場合。
- (ニ) 各部共に吟じ始めてから二分を超えた報らせのベルが鳴った場合。
- (ホ) 「プログラム」記載の出吟順番に遅れた場合。
- (ヘ) 審査結果発表並びに入賞者表彰時に事前に届け出なく出場者本人が不在の場合。
- (ト) その他、審査委員長が失格と認めた場合。
- (6) 成績の判定は、日吟振内規による「吟詠コンクール審査規定」に基づく。

- (7) 入賞者発表は表彰式典の席上で行われる。
- (8) 審査の採点は次の各項にウエイトをおいて行う。
- (イ) 吟声がすぐれているかどうか。
- (ロ) 発声、技術がすぐれているかどうか。
- (ハ) 伴奏曲と調和(音程をふくむ)しているかどうか。
- (ニ) アクセントが正しいかどうか。
- (ホ) 詩心を的確にとらえているかどうか。
- (ヘ) 吟詠態度が良いか悪いか、服装は男女問わず和服を着用のこと、洋服着用の際は2点の減点とする。和服着用の際は着付け歩き方等がみだれている時は減点の対象とする。
- (ト) マイクの上下を操作する時は、扇子を左腰に差し両手、片手を問わずスムーズに操作し、片手の場合でも減点しない。
- (9) 「コンクール」進行中の拍手、声援、私語雑談及び大会本部許可の報道関係者並びに記録班以外の会場内での写真撮影、テ이프レコーダー録音は禁止する。

◎コンクール出場者氏名

〈幼年の部〉 5名

5	4	3	2	1	番号
原 彩佳理	大 山 桔乃	原 田 佳奈	池 内 柑太	後 藤 花音	氏 名
弘道館に梅花を賞す	早に白帝城を発す	富士山	春 夜	偶 成	吟 題
9	8	7	8	9	本数
続 10	3	1	7	1	C D
					成績

〈少年の部〉 7名

12	11	10	9	8	7	6
新 谷 安珠	原 万理恵	武 安 亮河	武 安 優奈	前 田 紗那	妹 尾 美怜	西 山 優花
江南の春	九月十日	山行同志に示す	春 夜	菊 花	九月十日	富士山
9	9	2	9	9	9	8
2	5	4	3	2	5	続 10

〈青年の部〉 6名

18	17	16	15	14	13
平 岡 大輝	平 岡 朋子	澁 田 知佳依	西 山 穂菜美	武 政 朋子	松 下 大輔
蘇台覧古	秋 思	蘇台覧古	蘇台覧古	出郷の作	出郷の作
3	8	8	8	8	5
8	8	8	続 10	10	続 15

〈一般三部〉 69名

25	24	23	22	21	20	19
高橋雄子	赤澤正志	森田智子	兒玉多江子	大森良幸	中野路子	赤澤佳子
漢江	出郷の作	蘇台覧古	生田に宿す	出郷の作	出郷の作	蘇台覧古
7	1	8	6	2	7	6
4	7	続 13	7	4	続 16	7

33	32	31	30	29	28	27	26
森康高	浦部圭子	中田廣美	北村恵三	中島百合子	野瀬富貴男	藤森眞澄	高津啓司
出郷の作	応制天の橋立	出郷の作	出郷の作	蘇台覧古	出郷の作	出郷の作	応制天の橋立
3	5	6	3	7	4	6	4
続 9	6	続 15	10	6	9	9	8

41	40	39	38	37	36	35	34
橋本美智江	河村志壽枝	福島史利	河村美喜子	好井廣海	岸恭仔	中野澄子	平松美智子
秋思	出郷の作	出郷の作	生田に宿す	秋思	応制天の橋立	漢江	出郷の作
6	6	4	6	1	6	7	7
6	9	9	7	5	5	8	11

49	48	47	46	45	44	43	42
泉 正 恵	岩 見 力 江	菅 野 美 代 子	胡 中 重 俊	浮 津 美 津 恵	小 林 勝 年	石 原 健 治	黒 岡 健
漢 江	漢 江	出郷 の 作	秋 思	出郷 の 作	書 懐	漢 江	出郷 の 作
7	6	7	2	7	4	4	3
続 12	4	9	8	10	続 15	4	10

57	56	55	54	53	52	51	50
小 畠 智 義	荻 田 京 子	森 田 つ や 子	岡 村 咲 子	中 山 常 利	高 尾 ト ミ 子	白 松 順 子	河 村 正
応制天の橋立	漢 江	漢 江	秋 思	出郷 の 作	出郷 の 作	秋 思	出郷 の 作
3	7	6	7	4	7	7	2
4	4	続 5	5	12	9	続 13	続 14

65	64	63	62	61	60	59	58
坂 田 明	武 田 漑	玉 井 良 幸	河 内 義 春	安 原 純 子	坂 本 き よ み	岡 本 静 枝	大 原 剛 史
出郷 の 作	秋 思	応制天の橋立	生田に宿す	蘇台覧古	秋 思	出郷 の 作	出郷 の 作
3	7	2	2	6	7	7	1
9	5	6	4	6	4	続 14	1

73	72	71	70	69	68	67	66
横田敏則	津川美喜枝	上田寿人	松岡静枝	平田千恵子	水落桂子	北野尊之	野間澄子
書懷	漢江	出郷の作	応制天の橋立	蘇台覽古	生田に宿す	出郷の作	蘇台覽古
3	7	2	8	7	6	3	8
続 15	2	続 15	1	8	5	12	8

81	80	79	78	77	76	75	74
眞田大治	山下皓与	大嶋洋	下西美保子	光貞正明	新出谷ひろ子	早川求	本庄栄子
書懷	秋思	出郷の作	春暁	出郷の作	応制天の橋立	漢江	書懷
2	6	4	7	3	7	3	8
11	7	続 8	3	続 15	4	4	11

88	一般二部 34名	87	86	85	84	83	82
柘植晃子		貞綱勉	金堀孝行	藤川美枝子	児玉春雄	河岡孝司	石飛佑次
蘇台覽古		生田に宿す	出郷の作	八陣の図	秋思	応制天の橋立	八陣の図
8		3	3	7	4	3	1
続 13		9	10	10	8	4	続 9

96	95	94	93	92	91	90	89
作田和人	松尾祐子	佐藤保則	秋本祐子	黒川洋三	二井谷健	大江賢治	藺田弘美
出郷の作	望湖楼醉書	出郷の作	秋思	漢江	書懷	望湖楼醉書	応制天の橋立
3	7	2	8	3	3	3	8
6	続 15	7	続 10	4	続 15	9	4

104	103	102	101	100	99	98	97
木村智志	横手克尚	西村祐子	羽村敏幸	森本忠徳	松下美樹	杉村さよ子	山影佳代
応制天の橋立	出郷の作	出郷の作	書懷	生田に宿す	秋思	書懷	出郷の作
3	3	6	2	1	9	7	8
4	7	11	続 16	続 12	続 10	続 16	続 8

112	111	110	109	108	107	106	105
小橋裕子	安部豊枝	高山浩胡	曾田恵美子	草刈小夜子	中屋百合子	竹岡美登里	柘植千春
生田に宿す	出郷の作	蘇台覧古	書懷	出郷の作	秋思	出郷の作	応制天の橋立
7	8	8	7	7	8	7	6
続 12	続 16	8	11	9	続 10	9	1

120	119	118	117	116	115	114	113
中里文昭	村重瑞江	上野真佐江	日高宏	廣瀬千花	岡本芳晴	金藤朋子	西山美由紀
出郷の作	出郷の作	漢江	蘇台覧古	応制天の橋立	出郷の作	秋思	蘇台覧古
4	8	7	3	7	2	6	8
続 15	続 9	7	8	4	9	6	続 10

127	126	125	124	123	122	へ一般一部へ 16名	121
楠部倫子	津野千恵	白神信子	小川聡子	小藤千枝	山田美和		木戸頌子
応制天の橋立	蘇台覧古	出郷の作	蘇台覧古	春暁	八陣の図		生田に宿す
8	8	7	8	9	7		8
4	8	1	続 13	3	12		続 12

135	134	133	132	131	130	129	128
木本文子	北川由紀	井上雅子	井上弘子	杉原由佳	佐藤弘樹	勝部美穂子	劉金鵬
出郷の作	蘇台覧古	秋思	蘇台覧古	生田に宿す	出郷の作	漢江	秋思
7	9	8	5	8	3	8	2
10	3	続 12	6	続 12	9	2	7

吟 詠		
部 門	入賞数	決勝進出
幼年の部	2 (3)	2
少年の部	3 (4)	2
青年の部	2	2
一般三部	21	6
一般二部	11	6
一般一部	5	3
合 計	44	21

◎「幼年の部」「少年の部」の
() 内は敢闘賞数

137	136
平岡精二	白神真理子
漢江	出郷の作
3	7
4	1

令和4年度全国吟詠コンクール指定吟題

【幼年・少年の部】

- | | |
|------------------|------|
| ① 九月十日 | 菅原道真 |
| ② 富士山 | 石川丈山 |
| ③ 山行同志に示す | 草場佩川 |
| ④ 桂林荘雑詠諸生に示す・その一 | 広瀬淡窓 |
| ⑤ 弘道館に梅花を賞す | 徳川景山 |
| ⑥ 早に白帝城を発す | 李白 |
| ⑦ 菊花 | 白居易 |
| ⑧ 江南の春 | 杜牧 |
| ⑨ 春夜 | 蘇軾 |
| ⑩ 偶成 | 朱熹 |

【青年・一般の部】

- | | |
|----------|-------|
| ① 生田に宿す | 菅茶山 |
| ② 春暁 | 日柳燕石 |
| ③ 出郷の作 | 佐野竹之助 |
| ④ 蘇台覽古 | 李白 |
| ⑤ 秋思 | 劉禹錫 |
| ⑥ 望湖樓醉書 | 蘇軾 |
| ⑦ 応制天の橋立 | 釈希世 |
| ⑧ 書懷 | 篠原国幹 |
| ⑨ 八陣の図 | 杜甫 |
| ⑩ 漢江 | 杜牧 |



■ J R

山陽本線／J R 海田市駅下車、広島方面へ徒歩約5分

■ バス 船越町・安芸区役所前バス停下車 徒歩約1分

- ・ 広電バス／広島バスセンター4番ホーム
(熊野、阿戸方面行き)
- ・ 芸陽バス／広島バスセンター5番ホーム
(三迫、畑賀、南幸町、中野東7丁目、
一貫田、阿戸、八本松、西条方面行き)

■ 自家用車 県道164広島海田線沿い安芸区役所向かい

- ・ 山陽自動車道志和ICから国道2号線経由
- ・ 山陽自動車道広島東ICから広島高速1号線経由

※駐車場が大変混雑します。

公共交通機関でのご来館をお勧めいたします。